

医芸俳壇



千葉 秋葉 琢磨

万綠や穂高のふもとの同期
紫陽花の路地で艶めき競い合ひ
鯉轍北陸の川横断し
残雪の飯山の曲路に数多あり
珠洲製塙見たりなめたり夏の海

長野 有宗 七種
白雲の生れてはきゆる青あらし
藤房の艶ます風の來てゐたり
バラ垣の朝生き生きとかほりけり
どの花も口きをほひる卯月かな
夜瀧きの遊びにいひに更けゆけり

<p>北海道 静岡 岩本 漂人</p> <p>霧の奥キンザンマシコの声ならん 霧晴れねばタンチョウは五月ばかりかさう えだにあつやマキノセソーハウ虫の声 ココシキリ声はぶりとこウアナハ湖</p>	<p>東京 小南 丁字</p> <p>銀メダル離壇真央ちゃん仲間入り 春浅し歌舞伎の静けさ咳を呑む 西壁下「園春」に入參惜しむ春 夢植えるマーサイさんの樹々の春 西壁下妃殿トお揃いビオラの奏</p>	<p>東京 初芝 潤雄</p> <p>雨口の間のアジサイの花はつとすい アジサイは日光に映え七変化 里帰り山桃赤く我が庭に モノレールの窓外の景初夏溢れ モノレール外の景色は若葉のみ</p>
<p>(墨田区西壁下のOB会)</p>	<p>(墨田区西壁下のOB会)</p>	<p>(墨田区西壁下のOB会)</p>

<p>長野 楠本 勝彦</p> <p>木遣り泣き合の手轟轟木の芽風 よいてこよそ神木進む花辛夷 大鳥居ぐぐるめどじ夏めきぬ 山吹や冠落し絃を振る</p>	<p>長野 楠本 勝彦</p> <p>はなみすき我等裏方車地廻す</p>	<p>東京 兵庫 廣辻 逸郎</p> <p>恋がなう橋かき分けて車夫の汗 葡萄棚主の椅子の古びたる 故宮広し氷菓士売りの一塊銭 富殿の案内に飽きてソーダ水 口盡溢れて望楼の遙かなり</p>
<p>(新潟 中村 雄彦)</p>	<p>(新潟 中村 雄彦)</p>	<p>(新潟 中村 雄彦)</p>

青森 福士 盛大

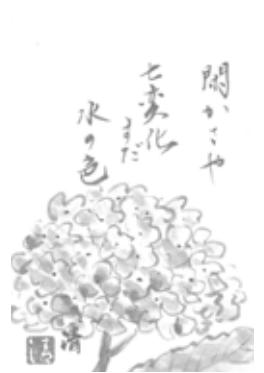
緑陰の木漏れ日踊る障子かな

短夜やカント・デカルト・ハイデガ

睡蓮や波間に浮かぶ白さかな

口盛や息もて余す愛し犬

夕焼や高校時代の帰り道



東京 福富 清子

東京 福富 清子

渡良瀬川白雲流る麦の秋

レリーのモガ・モボささめく青葉闇

虫干しや天袋より父の反故

七変化増やして遊けり兵たりし

言靈の入れかはり来て明易し

広島 渡辺 賈山

五月雨の露敷たたきて去り行けり

虹立ちて山のかなたへ誘はれき

慈悲心鳥なぜ声遠し山深し

とうかさん浴衣の老若男女かな

かんばちや酒の肴の季節よし

東京 福神 梢子

蘿籐幽霊坂に住み古りて

身ほとりに一女ぬる幸や桐の花

夏座敷一切調度なかりけり

遠景に静かな海や薔薇を見る

少年に戻りたき日や夏の海

青森 三上 忠英

初孫に吉の日動く夏座敷

故郷や横座にでると益の父

帰省子の真つ先に行く駄菓子店

デパートに何か侘しき兜虫

水打って水打って寄待つてきり

青森 秋霧 朝光

待つといふ喜びありぬ春の土

咲く桜咲かぬ桜も人生だ

日めぐりを剥けば立春つるつる

春つらら夢も蓄もふくらんで

雪園にて外して春をふくする

東京 粉木 穂穂

巣燕を仰げば親が掠の飛ぶ
夏館多摩の横山あらはなる
木犀の香の時折に午睡かな
星見えず夜も三更や星祭
生い立ちを知る庭石や夏木立

歌会を開きませんか
さる6月の総会で
林先生から「歌会を開きたいですね」と
発言がありました。
新年会を兼ねて
1月下旬ごろ、銀座
あたりでということです。秋季号に具
体的な手順をお知
らせしますので、そ
の際はご参加くだ
さい。